

地形不思議なる所なり。毎歳大晦日には此地へ龍燈あり。此所入海にして中唐へ聲届き也。渡しあり。四町許なり。』とあるが、文中の安養寺といふは今存せぬ。山王権現及び住吉明神は奈古司社に併合せられてゐる。能登誌に山王権現を式之美麻那比古神社であるとする説は誤謬である。

**イハサカ** 岩坂 珠洲郡正院郷に屬する部落。能登名跡志に『岩坂村近し。三俵蒨としてよき百姓あり。』とある。

**イハサカシヤ** 岩坂社 白山九所の小神の一つであるが、今廢絶して明らかでない。白山記には『岩坂、宮尻、在之』とし、大永七年の託宣記には『岩坂、宮尻木戸、内』とある。白山宮莊嚴講中記録貞治二年五月の條に『宮尻坂口と見えるから、それを岩坂と言つたのかも知れない。宮尻は後の白山村である。式内等舊社記にも、『岩坂神社。河内庄白山宮尻村鎮座。白山九所小神。手取川洪水社地流失。社殿廢絶。』と記されてゐる。

**イハサキ** 岩崎 河北郡笠野郷に屬する部落。

**イハサキジュアン** 岩崎壽安 享保十四年御鉞監として召出され、二十人扶持を受けたが、元文元年久保藩將の養子となり、寛保三年その跡目を相続した。

**イハサキジヨウ** 岩崎城 能美郡岩上に在つた。越後賀三州志に、石垣の遺形尙存する。按ずるに一本に波佐羅があつて岩崎はない。若しくは是同述かとある。

**イハサキヤジセキ** 岩崎屋自石 小松の俳人。雲左堂と號した。通稱は次右衛門。文政五年四月廿四日八十九歳を以て歿。

**イハシミツハチマングウリヨウ** 石清水八幡宮鎮 石清水八幡宮鎮に能美郡能美・長野・一針三ヶ庄のあつたことは、文永六年乃至天文十五年の文書に、能美郡山上郷は寛正二年乃至天文十五年の文書に、石川郡西泉は天文十五年の文書に見え、又鹿島郡新庄村（八幡新庄）七十俵の地を前出利家が寄進したことは、天正十年九月の判書がある。後慶長十一年十月新庄を鳳至郡光浦と交換せられた。

**イハセガハ** 岩瀬川 鳳至郡東の附近に於いては町野川を岩瀬川と稱する。能登名跡志に、『此所則岩瀬の渡とて元はありしと也。此の渡り月の名所にて、今も川瀬に毎歳八月十五夜には、月影二體移りて、北國一の月の名所也。』と見える。又貞享由来記に同郡道下村の北を流れる川を石瀬川とし、道下を石瀬渡と記するが、何等の據がない。

**イハセヒコジンジャ** 石瀬比古神社 (一) 惣記一鳳至郡東(部落名)に在る。式内等舊社記に、『石瀬比古神社式内一社。町野郷内東村鎮座。稱岩瀬宮。舊傳云。東村往古稱岩瀬村。中古稱荒橋村。社傳在岩瀬山。後移轉於同村八幡宮之社地也。八幡神社東村鎮座。別當所號八幡寺。舊社也。』とあり、能登名跡志には、『東村として小村あり。是に岩瀬比古の神社立給ふ。御神体八幡宮也。座主は八幡寺として東村に眞言宗あり。神主は川向徳成村大浦氏なり。云々。社は此(みかまき山)麓に在り。昔は兩部習合の大社にて、近郷の惣社なりしといへども、今は幽なる小社也。』と見える。按ずるに八幡神社は石瀬比古神社の爲に社地を占められたもので、今は境内社となつてゐる。名跡志のいふが如く、石瀬比古神社の祭神が八幡宮であるのではない。

(二) 棟札一石瀬比古神社に現に蔵する所に八幡宮の棟札がある。竪六六種、横一八種。表面に『奉勸請正八幡宮一社一天泰平寶祚延長祈攸。康平七歲六月吉日。大願主八幡寺現住仁海。大檀那惣氏中。』裏面に、『神功皇后。應神天皇。仁徳天皇。右者大隅國桑原郡鹿子島神社從勸請之所也。奉崇八幡寺鎮守荒橋郷惣氏子。』とあつて、縣下現存最古の棟札であらうかといふ。案ずるに、鹿兒島神社より勸請した正八幡ならば彦火々出見尊である筈であり、且つこの地は王朝の待野郷で、未だ荒橋郷の名あることを聞かぬ。恐らくは後世の偽作であらう。

**イハソコダニ** 岩底谷 石川郡冬瓜山の東方溪谷で、その水は蛇谷に入つて下流尾添川となる。

**イハタ** 岩田 羽咋郡甘田保に屬する部落。

**イハタウネメ** 岩田采女 父彌助は金森法印に仕へた人。采女は前出利長に仕へて千石を受け、子孫世々藩に仕へた。

**イハタジユウザエモン** 岩田十左衛門 祿百石を以て初めて加賀藩に仕へ、延寶七年歿。四代長美に至つて家系絶えた。

**イハタチユウ** 岩田紐 諱は紐、字は伯綱、通稱彌助。幼にして神童の名があり、經史兵律算數の習博涉せざるなかつた。天保十年明倫堂句讀師となり、弘化二年訓導に進み、父采女の後を襲ぎて馬廻組に班し、三年能登の郡奉行、六年小松町奉行兼作事奉行、安政元年會所奉行、四年再び能登郡奉行に任じ、七月九日四十一歳を以て歿。三州續志の著があり、最も作詩を好んだ。

**イハタナガヨシ** 岩田長美 通稱彦九郎。實は山東清左衛門の弟で、岩田武太夫長尙の後を襲ぎ、小松御馬廻に屬して百石を受けたが、不行狀を以て親類預となり、長病人と稱して金澤へ出て組外に班せしめられた。明和四年六十五歳を以て歿し、その統絶えた。

**イハタノリマサ** 岩田則正 大聖寺の人。舊姓田中。通稱傳十郎。藩侯に仕へて功多く、祿百五十石を賜はり、又南嶽を能くして元山又は松石堂と號した。明治十二年七月六十六歳を以て歿。

**イハタミヨウジン** 岩田明神 鳳至郡宇加川の産土神で、天日鷲命を祀つた。今の若宮八幡神社と稱するものに當る。

**イハタモリテル** 岩田盛照 通稱鉄之助。傳左衛門・内藏助。傳左衛門盛裕の子。畷千石。高岡町奉行・新川御郡奉行・御作事奉行等を経て定番頭に至り、文政八年三月隱居して三百石を受けた。諸士系譜に盛昭に作るものは恐らく非であらう。

**イハタモリヒロ** 岩田盛弘 通稱傳左衛門。勳右衛門・内藏助。父左馬助は龍川一益に仕へ、天正十八年小田原征伐の際戦死した。盛弘初め太田長知の家人となり、慶長五年前田利長の大聖寺・小松役に出陣し、淺井曠で殊功があつた爲感狀及び刀一振・黄金三枚を賜はり、長知絶炊の後十二年利長に召抱へられ千石を受けた。次いで大坂役に旗奉行として従ひ、五百石を加賜せられたが、元和三年致仕して松平下總守忠明又は堀丹後守直寄に寄食し、次いで直寄の卒後正保二年前田光高に